

飯島陣屋だより

No. 2
1994.1

発行／飯島町教育委員会

長野県上伊那郡飯島町飯島2442-4

☎0265-86-3111内線(67)

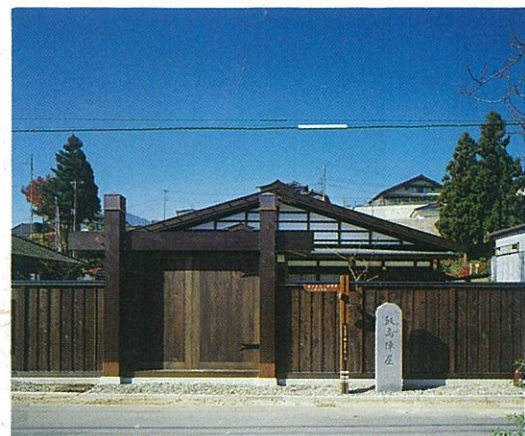


飯島陣屋本陣（右）と記念館

復元
飯島陣屋竣工!!



玄関から見た本陣内部



陣屋小路からの外観

平成6年1月25日開館

現在、飯島陣屋本陣では、「飯島陣屋ボランティアグループ」の協力で展示作業を進めています。展示するのは、主に当時使われた道具や調度品などです。これらの多くは、飯島町内や近隣の方々から寄贈していただいたもので、陣屋が完成するまでは飯島町陣屋館（歴史民俗資料館）で保存されていました。飯島陣屋の開館は、平成六年一月二十五日（火）です。また、開館に先だつ一月二十二日と二十三日（土、日）の二日間は、地元商店街の「お陣屋行灯市」に合わせて、無料公開されます。

展示作業の真っ最中

平成五年十二月二〇日、飯島陣屋復元整備事業の竣工式典が行われました。江戸時代に幕府の代官陣屋が置かれ、明治初期には伊那県の県庁に引き継がれたこの地は、昭和三十七年七月、「伊那県庁（飯島陣屋跡）」として長野県史跡に指定されています。それから三〇年以上が経ち、ようやくここに建物が復元されました。向かって右側の「飯島陣屋本陣」は、嘉永六年（一八五三）の古文書によって当時の姿や使われた材木を把握し、発掘調査によって遺構を確認した上で、その位置どおりに復元されました。左側の「飯島陣屋記念館」は、何度も改築されたとはいえ、現在まで残っていた当時の建物を移転・補強したものです。

飯島陣屋ボランティアグループ

平成五年一月一〇日、飯島町陣嶺館（歴史民俗資料館）で「飯島陣屋ボランティアグループ」の顔見せ会が行われました。ボランティアに登録してくださったのは、飯島町とお隣の駒ヶ根市に住む一、二名の方です。

復元された飯島陣屋は、各部屋に当時の調度品などを置いて、役人の仕事の様子がいまじでできるような「情景展示」を目指しています。そこで、建物の完成が間近となった九月、この作業をお手伝いしていただける方々を募集したところ、主婦や独身女性を始め、「普段は手伝えないが、仕事の合間に」という方など、二十代から三歳までの男女に御応募いただきました。

顔見せ会以降、毎週水曜日と土曜日に作業をしています。陣嶺館で保管していた長持やたんす、和机から台所用具に至るまでの年代物のほこりを払い、鍋や釜などのさびを取り、初冬の冷たい風にも負けずに皆さん楽しくやっていたいでいます。



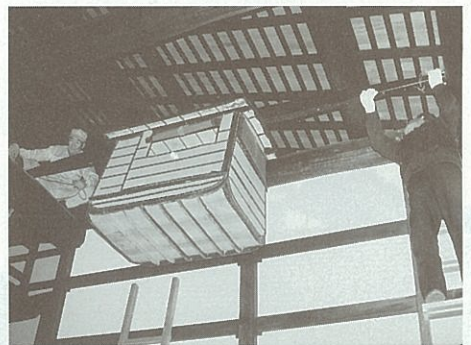
陣嶺館前での作業

何度か作業を経験していただいたある日、たまたまその日集まった方たちで座談会を行いました。いつものように朝一〇時に集まってお茶を飲んでいるところへ突然切り出した話でしたが、皆さん、陣屋のこと、町のこと、そして自身のことについて熱心に話っていました。以下は、そのときの様子です。

陣屋・町・私

〈ボランティアグループ座談会〉

*座談会なんていうよりも、茶飲み話の続きという雰囲気だった。陣屋・町・私...こんなタイトルも編集者が独断で後からつけたものであることをお断りしておく。



駕籠を梁に載せる

司会者 今日仕事にかかるとお話を伺いたいと思ってるんです。

「顔を合わせて」

「うまく話せないわよ」

という具合に、座談会はいきなり始まった。テーブルの上にはメンバーの一人が持つてきてくれた柿が色を添えている。

司会者 もう既に何度か展示品の手入れをしていただいていたわけですが、作業をしてみても皆さんのような御感想をお持ちですか？

「そうねえ、百年以上前のものなんか拭いたりするじゃない、そういうものに触れることがとても楽しいのよ」

「そう、見たことのないものも見れる」「私はね、最初仕事の内容を聞いてびっくり、お掃除だけでもいいって言うんで来たんだよね。だけど楽しいじゃない？」「楽しくなければ来ません」

司会者 展示品の手入れが終わると、今後は実際の展示作業に入るわけですが、

「展示そのものについては勉強したい」「視察なんかに行きたいわね」「いろんなところへ旅行に行ったりするじゃない、そういうところで結構見るから、なんとなくイメージとしてはあるよ」「それでも、近代的でないものを置くんだから少しは勉強しなくちゃね」

司会者 昔の台所の展示はどうですか？

「お勝手のことならわかるよ」

「少しは...」

司会者 さつき視察のことが出ましたが、飯島町の近くにも、駒ヶ根市の「竹村家住宅」(重要文化財)や、宮田村にある昔の宿場の本陣とか、いい施設があるんですよ。

「いろんなところを見て、参考にしたい」

「そう、伊那谷の歴史見学コースとか、うんうん、だけど、飯島の中にどうしていいところはないかいあるのよ」

「千人塚(公園)とか、シオジ平(自然園)とか」

「千人塚でマレットゴルフのついでに陣屋にも来てもらえばいいんじゃない？」

「与田切公園(キャンプ場)で焼き肉のついでにも...」

「とにかく、もっと宣伝してみんなに来てもらいたいよ」



本陣台所の様子

司会者 皆さん、ボランティアについてはどうお考えなんですか？

「助け合い、奉仕、させていただく...」「してあげるんじゃないよ、ね」「そう、まったく。させていただくことで普通に見えないものを見せていただくことで...」「例えば、障害者の方と関わることで、こちらがいたくものほうが多いんです」「こういう活動を通してプラスになるものがあるのよ。自分の向上のためなのよ」

「私は、短大のときにボランティア活動をやっていて、とてもいい面を見て、今回の陣屋のボランティアにも来てみたんです」「これくらいならできるかな、何か役に立つだろう、と思ったの」

「おうちのこともちゃんとやりながらね」「私なんか、今まで社会にお世話になつてきた恩返しよ」

司会者 (ほとほと感銘を受けて) 世の中には素晴らしい人がこんなにいるんですね。このボランティアやらせてもらって、歴史の素晴らしさって言うか、自分の町に残る歴史を守っていかなくちゃ、ってことをつくづく感じてますよ

メンバーの中には、ほかのボランティアと掛け持ちで来てくれている人もいます。こんなボランティアのベテランもいる一方、地域の歴史に興味を持って来てくれている人もいます。

司会者 それじゃあ、あとは言い残したことがあったらなんでもどうぞ。

「毎日、宝物に触てるように思うよ」「みんなそんな思いで来てるんじゃない？」

「ホントに軽い気持ちで参加したんだけどね」「お金で買えないものがあるわね」



視察先(田中本家)で記念撮影

「ボランティア、これからは続けていきたい」「古いものを大切にしながら、新しいものを模索していければいいね。と言って、古いものにとらわれすぎないように、新しいものを受け入れていけるような町になれば...」

「私ね、よそから来た人に電車の中でよくいろんなこと聞かれるの、あの山の名前はなんですか、とか。ここに住んでて答えられないのが恥ずかしくなってるね、地元のことくらい知っておきたいと思うんだよね」

司会者 駒ヶ根市から通ってくださってる方が一人いらっしやるんですが、飯島の印象はどうですか？

「うーん...そうですね、駒ヶ根に住んでると、今まで飯島はただ通り過ぎるところだったんです。でも、ちよつと立ち寄ってみると、温かい町だな、と思います」

「いやあ、ぜひ宣伝してください」

「駒ヶ根にもしよつちゅう行きますから...」

「駒ヶ根は観光バスがどんどん来てすこいよね」

「飯島の人なんかもおとなしいですよ...。どうしてもっと宣伝しないだろう。飯島にはいいところいっぱいありますよ」

あとの作業の予定もあつたので、尻切れトンボに終わってしまったが、話は尽きる様子もなかった。



本陣前での作業

このチラシは、平成五年度文化財愛護活動推進方策研究委嘱事業費により作成しました。